

お小遣いの賢い与え方

知らなきや損する

社会人になる準備の意味もありますよ

子どもの1か月当たりの小遣い額(2009年)

		小学生			中学生	高校生
		1,2年	3,4年	5,6年		
全体		826	905	1150	2552	6045
年間世帯別	300万円未満	1162	1118	886	2333	5300
	500万円未満	935	809	1071	2404	5913
	750万円未満	691	851	1227	2571	6180
	1000万円未満	550	792	1190	2724	5868
	1200万円未満	460	1875	1829	2545	7267

(単位:円)

資料:金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」2009年

あなたの家庭では、子どものお小遣い、どうしていますか? 保護者は、子どものお小遣いを通じて、「お金を管理することを学んで」「がまんすることを知ったり、本当に必要かどうか考えて」「身の丈にあったお金の使い方を知って」という思いがあります。お小遣いを与えることが将来、社会人として生活していくうえで大切なスタートと考えているわけです。

年代ごとに金額のルール

お小遣いは、小学生低学年では与えていない家庭が多いようですが、小学校3年生ぐらいから中学・高校へ進むに従って、与える家庭が増えていきます。そこで気になるのが、お小遣いの金額です。金額は年代ごとにルールみたいなものがあるようで、別表のように小学生時代は「小学生ルール」、例えば、1か月の金額＝「学年×200円」とか、「定期的なお小遣い」+「お手伝い」と連動させ、例えば「学年×200円+お風呂掃除50円+ごみ捨て10円+ごみ分別1個1円、ただし靴下脱ぎっぱなしはマイナス2円」といった計算です。

次に、小遣いのあげ方ですが、毎日あげる、必要などきにあげるというより、1か月あるいは1週間分まとめてあげる家庭が多いようです。定期

的にお小遣いを与える方が、「計画的に使う能力」を養うことができるからです。

また、お小遣いの使い道は、小学校低学年ではお菓子やジュースなどの飲食代と文具代の割合が大きく、高学年や中学生になると飲食代とまんが、本・雑誌代の割合が大きくなり、高校になると飲食代と友人との外食代が大きくなっていくようです。

お小遣いについては、「与えるかどうか」はもちろんですが、「どこまでをお小遣いにして、どこから親の負担とするか」は悩むところですね。

親子で楽しく学ぶイベント

さて、今年も夏休みの8月3日(火)・4日(水)の両日、金沢21世紀美術館で、ゲームやコント、実体験を通じてお金の大切さや知識を学んでもらうイベント「親子で楽しく学ぼう! お金ってなに?」(石川県金融広報委員会など主催)が開かれます。対象は小学生の親子です。親子でお小遣いやお金について学び、話し合ってみてはいかがでしょうか。



暮らしのマネプラン相談センター所長

サーティファイド
ファイナンシャル
プランナー 高橋 昌子

受講生募集中! 国家資格「2級FP技能士」検定試験直前対策講座

重点ポイント講義(学科+実技)+過去問題対策で効率良く合格を目指します。

【日時】毎週土曜日、全4回(各10時~17時)

【会場】株式会社FPサポート研究所(金沢駅西口徒歩2分)

【費用】受講費31,500円(教材費含む) 【定員】10名

※個人情報保護法に基づきご連絡のみ利用させていただきます。

【同時募集】国家資格「3級FP技能士講座」8月生募集中

- 資料請求は①氏名・②年齢・③住所・④電話番号を明記し、FAX(076-23-2-8491)またはTEL(076-232-2038)、E-MAIL(ipac@fpsl.co.jp)までお申込み下さい。

8月7日(土)開講 (全4回)

資料請求
問い合わせ

NPO法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 認定教育機関

株式会社 FPサポート研究所

〒920-0031 金沢市広岡1-3-1 シャンブル18ビル2F

http://www.fpsl.co.jp ☎076-232-2038

